

PUBLICATION NUMBER : 55127312
PUBLICATION DATE : 02-10-80

APPLICATION DATE : 23-03-79
APPLICATION NUMBER : 54034774

APPLICANT : KISHIYOUHIN KAGAKU KAIHOU KENKYUSHO:KK;

INVENTOR : ABE TAKEHIKO;

INT.CL. : A61K 7/00

TITLE : PACK COSMETIC

ABSTRACT : PURPOSE: A pack cosmetic having a high film formation rate, comprising (A) the first component sol, formed by adding a specific water-soluble high polymer to polyvinyl alcohol, and (B) the second component sol, formed by adding a specific lactate to polyvinyl alcohol.

CONSTITUTION: A water-soluble high polymer, e.g. sodium or potassium alginate, sodium polyacrylate, or pectin, which gels by adding a bivalent metal lactate or chloride thereto, is added to polyvinyl alcohol to form (A) the first component sol. A bivalent metal lactate is added to polyvinyl alcohol to form (B) the second component sol. The skin is coated with the sol (A), and then the sol (B), which gelatinizes (A) with the bivalent metal salt to form a film. Thus, a pack cosmetic is obtained immediately. The sol (B) dries in about 15min to form a film which is strippable.

COPYRIGHT: (C) JPO

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A)

昭55-127312

⑫ Int. Cl.³
A 61 K 7/00

識別記号

庁内整理番号
7432-4C

⑬ 公開 昭和55年(1980)10月2日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ パック化粧品

⑯ 発明者 阿部武彦

東京都世田谷区砧 8-26-16

⑰ 特 願 昭54-34774

⑰ 出 願 人 株式会社肌粧品化学開放研究所

⑱ 出 願 昭54(1979)3月23日

東京都世田谷区砧 8-26-16

⑲ 発 明 者 戸井田博

⑳ 代 理 人 弁理士 小野馬之丞

東京都渋谷区上原 1-4-4

阿部武彦

明 細 書

1. 発明の名称

パック化粧品

2. 特許請求の範囲

二価の金属の乳酸塩、または、塩化物を添加することによりゲル化するアルギン酸のナトリウム塩、カリウム塩、またはポリアクリル酸ナトリウム、ペクチン、その他の水溶性高分子をポリビニルアルコールに加えたゾルを第一剤とし、ポリビニルアルコールに二価の金属の乳酸塩、または、塩化物を加えたゾルを第二剤とし、第一剤ならびに第二剤の組み合わせから成るパック化粧品。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、二価の金属の乳酸塩、または、塩化物を添加することによりゲル化するアルギン酸のナトリウム塩、カリウム塩、または、ポリアクリル酸ナトリウム、ペクチンその他の水溶性高分子をポリビニルアルコールに加えたゾルを第一剤とし、ポリビニルアルコールに二価の

金属の乳酸塩、または、塩化物を加えたゾルを第二剤とし、第一剤ならびに第二剤の組み合わせから成るパック化粧品に関するものである。

ポリビニルアルコールを主剤とするパック化粧品の作用は、まず、皮膚に塗布することにより清涼感を与え、かつ、皮膚角質層に水分と栄養を与える。さらに、乾燥し、反膜を形成すると、皮膚は外気から遮断され、皮膚温度は一時的に上昇し、毛細血管が拡張され、皮膚からの吸収が盛んになる。また、剥離時に、皮膚に付着した汚れ、老化角質を除去するものである。つまり、パック化粧品は、皮膚形成後にその主たる目的が達せられるものである。

しかしながら、従来のポリビニルアルコールを主剤とするパック化粧品は、皮膚からの剥離性をよくし、また皮膚保護剤としてのグリセリン、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコールなどの多価アルコールを用いており、皮膚形成遅延の原因となっていた。さらに、ポリビニルアルコールは濃度により皮膚形成速度

に著しい差異がある。

このように、従来のパック化粧料は皮膚形成速度が遅く、皮膚形成まで塗布後は分前後かかり、皮膚形成とともに剥離することになり、パック化粧料の効果が十分発揮されていなかった。

本発明の目的は、皮膚形成速度を早めることにより、パック化粧料の皮膚に対する効果を十分発揮させることにある。その他の点については、従来のポリビニルアルコールを主剤とするパック化粧料の皮膚に対する目的、使用感に關しては全く同一のものである。

すなわち、本発明はポリビニルアルコールに少量のアルギン酸のナトリウム塩、カリウム塩または、ポリアクリル酸ナトリウム、ペクチン等を加えたゾルを第一剤とし、ポリビニルアルコールに塩化カルシウムまたは、乳酸カルシウム等二価の金属塩を添加したゾルを第二剤とする。てして、その使用方法はまず第一剤を皮膚に塗布し、さらに、その表面に第二剤を塗布することにより、第一剤は、第二剤の二価の金属

塩によつてゲル化し、皮膚が形成され、さらにパック化粧料としての効果を発揮する。第二剤は従来のパック化粧料と変わりなく、15分前後で乾燥し、皮膚形成され、剥離可能となる。

したがつて、本発明は、皮膚への塗布後、さらにパック化粧料としての効果を発揮し、皮膚形成の経過時間で剥離可能となることを特徴とするパック化粧料である。

以下実施例を示す。なお配合割合はすべて重量比とする。

実施例 1

第一剤

ポリビニルアルコール	10.0%
アルギン酸ナトリウム	1.0%
グリセリン	4.0%
パラオキシ安息香酸メチル	0.1%
香料	0.1
モノラウリン酸ポリオキシエチレン ソルビタン (20 E.O.)	1.0%
水	83.8%

- 3 -

- 4 -

適当な容量のビーカーに、ポリビニルアルコール、アルギン酸ナトリウム、グリセリン、パラオキシ安息香酸メチル、水を入れ、60℃～80℃に加温し、搅拌均匀する。これに香料、モノラウリン酸ポリオキシエチレンソルビタンを搅拌均匀したものを加え、均質して得する。

第二剤

ポリビニルアルコール	10.0%
乳酸カルシウム	1.0%
グリセリン	4.0%
パラオキシ安息香酸メチル	0.1%
香料	0.1%
モノラウリン酸ポリオキシエチレン ソルビタン (20 E.O.)	1.0%
水	83.8%

適当な容量のビーカーに、ポリビニルアルコール、乳酸カルシウム、グリセリン、パラオキシ安息香酸メチル、水を入れ、60℃～80℃に加温し、搅拌均匀する。これに香料、モノラウ

リン酸ポリオキシエチレンソルビタンを搅拌均匀したものに加え、均質して得する。

実施例 2

第一剤

ポリビニルアルコール	8.0%
アルギン酸ナトリウム	1.5%
1,3-ブチレングリコール	5.0%
パラオキシ安息香酸メチル	0.1%
アラントイン	0.1%
ビタミンE	0.01%
香料	0.1%
モノラウリン酸ポリオキシエチレン ソルビタン (20 E.O.)	1.0%
水	84.19%

適当な容量のビーカーに、ポリビニルアルコール、アルギン酸ナトリウム、1,3-ブチレングリコール、パラオキシ安息香酸メチル、アラントイン、水を入れ、60℃～80℃に加温し、搅拌均匀する。これにビタミンE、香料、モノラウリン酸ポリオキシエチレンソルビタンを攪

- 5 -

- 6 -

拌混合したものを加え、冷却して製する。

第二剤

ポリビニルアルコール	10.0%
塩化カルシウム	0.8%
1,3-ブチレングリコール	5.0%
パラオキシ安息香酸メチル	0.1%
モノラウリン酸ポリオキシエチレン	
ソルビタン (20 E.O.)	1.0%
水	83.0%

適当な容量のビーカーに、ポリビニルアルコール、塩化カルシウム、1,3-ブチレングリコール、パラオキシ安息香酸メチル、水を入れ、60℃～80℃に加温し、攪拌溶解する。これに香料、モノラウリン酸ポリオキシエチレンソルビタンを攪拌混合したものを加え、冷却して製する。

実施例3

第一剤

ポリビニルアルコール	10.0%
------------	-------

ベクテン	2.0%
グリセリン	5.0%
パラオキシ安息香酸メチル	0.1%
グリチルリチン酸ジカリウム	0.1%
香料	0.1%
モノラウリン酸ポリオキシエチレン	
ソルビタン (20 E.O.)	1.0%
水	81.7%

適当な容量のビーカーに、ポリビニルアルコール、ベクテン、グリセリン、パラオキシ安息香酸メチル、グリチルリチン酸ジカリウム、水を入れ、60℃～80℃に加温し、攪拌溶解する。これに香料、モノラウリン酸ポリオキシエチレンソルビタンを攪拌混合したものを加え、冷却して製する。

第二剤

ポリビニルアルコール	10.0%
塩化カルシウム	1.5%
グリセリン	5.0%

- 7 -

- 8 -

パラオキシ安息香酸メチル	0.1%
香料	0.1%
モノラウリン酸ポリオキシエチレン	
ソルビタン (20 E.O.)	1.0%
水	82.3%

適当な容量のビーカーに、ポリビニルアルコール、塩化カルシウム、グリセリン、パラオキシ安息香酸メチルを入れ、60℃～80℃に加温し、攪拌溶解する。これに、香料、モノラウリン酸ポリオキシエチレンソルビタンを攪拌混合したものを加え、冷却して製する。

代理人 小野馬之丞